

JICA・JST・AMED 主催 2018年度

科学と開発をつなぐブリッジ・ワークショップ（ご案内）**「会って・驚いて・役立てる」**

世界の開発目標としてSDGsが提唱され、科学技術分野においても、科学技術による変革やイノベーションを通じて社会の開発に寄与することが一層求められています。日本政府は、科学技術とODAを連携させるプログラムとして「地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS：サトレップス）」を創設し、現在までに50ヶ国で133案件を実施しています。この度、SDGsへの貢献に向けて、科学技術協力の成果を開発協力につなげることを目的に、研究者から開発協力に携わる方へ、SATREPS事業とその研究成果を紹介し、両者が意見交換するワークショップを開催します。**開発協力に携わる方が、開発途上国の課題解決に挑む研究者に会って、新しい技術や知識に驚いて、開発協力の中で役立てる機会を提供します。**研究者の方には、国際協力従事者との交流を通じ、研究成果の更なる社会還元への着想を広げる場を提供します。昨年8月に第1回が開催され、今回は2回目の実施となります。

- ◇ 日時：7月30日（月）午前9時から17時30分まで
- ◇ 会場：JICA市ヶ谷ビル（東京都新宿区市谷本村町10-5）国際会議場
- ◇ 発表者：最終年を迎えるSATREPS案件（11件）の研究代表者
- ◇ 聴講者：開発コンサルタント企業、一般企業、開発NGO、在京国際機関、研究関係者など
- ◇ 時間割：次ページ（裏面）をご覧ください。
- ◇ 言語：日本語
- ◇ 聴講申込み：参加費無料の先着予約制です。以下の情報をメールアドレス eigst@jica.go.jp に送付願います。定員（100名）になり次第、受付を終了します。返信にて聴講の可否をお知らせします。

- 聴講希望者の所属組織・部署、氏名、E-mail、Tel（本件以外の目的には使用しません。）
- 事前アンケート：以下の回答をお知らせください。
 - ① 従事されている業務内容
 - ② 環境、低炭素社会、防災、生物資源、感染症のうち関心のある分野
 - ③ 業務の中で見つけた開発途上国で必要とされる研究テーマ

- ◇ 主催：国際協力機構（JICA） / 科学技術振興機構（JST） / 日本医療研究開発機構（AMED）
- ◇ 後援：国際連合工業開発機関（UNIDO）東京事務所 / 国際協力NGOセンター（JANIC）
SDGs Holistic Innovation Platform（Japan Innovation Network・国連開発計画（UNDP）共同運営）
一般財団法人 新エネルギー財団 / 一般財団法人 バイオインダストリー協会
一般社団法人 日本防災プラットフォーム
- ◇ 事務局連絡先：JICA 社会基盤・平和構築部 国際科学技術協力室（担当：下田・岸本）
E-mail：eigst@jica.go.jp Tel：03-5226-8114

科学と開発をつなぐブリッジ・ワークショップ<スケジュール>

- 09 : 00 開場
- 09 : 20 開会の挨拶 (10分)
- 09 : 30 SATREPS プログラムの説明 (10分)
- 09 : 40 研究者から発表 (20分 × 4 案件 = 80分)
- 11 : 00 休憩 (10分)
- 11 : 10 研究者から発表 (20分 × 4 案件 = 80分)
- 12 : 30 休憩 (60分)
- 13 : 30 研究者から発表 (20分 × 3 案件 = 60分)
- 14 : 30 研究者と聴講者との意見交換 (60分)
- 15 : 30 第1回ワークショップ後の活動報告 (55分)
- 16 : 25 閉会の挨拶 (5分)
- 16 : 30 研究者と聴講者の交流会 (60分)
- 17 : 30 解散

研究成果を発表する 11 案件 (最終年を迎える SATREPS 案件、発表順)

分野	国	案件名	研究代表機関	発表者
感染症	モンゴル	モンゴルにおける家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発	帯広畜産大学	横山直明 教授 原虫病研究センター
感染症	ラオス	ラオス国のマラリア及び重要寄生虫症の流行拡散制御に向けた遺伝疫学による革新的技術開発研究	国立国際医療研究センター	狩野繁之 部長 熱帯医学・マラリア研究部
感染症	南アフリカ	南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行の早期警戒システムの構築	長崎大学	皆川 昇 教授 熱帯医学研究所
感染症	タイ	効果的な結核対策のためのヒトと病原菌のゲノム情報の統合的活用	東京大学	徳永勝士 教授 大学院医学系研究科
生物資源	コロンビア	遺伝的改良と先端フィールド管理技術の活用によるラテンアメリカ型省資源稲作の開発と定着	東京大学	岡田謙介 教授 大学院農学生命科学研究科
環境	ネパール	微生物学と水文水質学を融合させたネパールカトマンズの水安全性を確保する技術の開発	山梨大学	風間ふたば 教授 大学院総合研究部国際流域環境研究センター
環境	ブラジル	“フィールドミュージアム”構想によるアマゾンの生物多様性保全	京都大学	幸島司郎 教授 野生動物研究センター
環境	タイ	低品位炭とバイオマスのタイ国におけるクリーンで効率的な利用法を目指した溶剤改質法の開発	京都大学	三浦孝一 特任教授 エネルギー理工学研究所
低炭素社会	インドネシア	インドネシアにおけるバイオマス廃棄物の流動接触分解ガス化・液体燃料生産モデルシステムの開発	群馬大学	野田玲治 教授 理工学部環境創生理工学科
防災	インドネシア	火山噴出物の放出に伴う災害の軽減に関する総合的研究	京都大学	井口正人 教授 防災研究所
防災	バングラデシュ	バングラデシュ国における高潮・洪水被害の防止軽減技術の研究開発	京都大学	中川 一 教授 防災研究所